

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

第52回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開 催 日 : 令和6年12月8日(日)

会 場 : ソニックシティ

テ ー マ : Challenge!

サブテーマ : ~ 多様化するニーズへの実践と進化 ~



第52回埼玉県医学検査学会

事務局長 石井 圭一

第52回埼玉県医学検査学会の事務局長を務めさせていただきますTMGあさか医療センターの石井圭一と申します。

4月からは医師の働き方改革の新制度も予定されており、臨床検査技師へ「多様化するニーズへの実践」が求められています。各施設におかれましてもChallenge!の真只中ではないでしょうか。

第52回学会のテーマは「Challenge!」です。実行委員におきましても、今までの伝統を引き継ぎつつ、チャレンジ精神を持ち、木暮学会長、塚原実行委員長を中心とした学会運営が始まっております。現在は小原学術部長が率いる学術部を中心に、会員皆様のニーズに応える学会企画が検討されておりますのでご期待ください。

会員、賛助会員の皆様におかれましても本学会をChallenge!の場としてご利用いただけたら幸いです。初めて学会へ参加される方、初めて学会発表される方の、より良い学会、記憶に残る学会となりますよう、実行委員一同、精一杯Challenge!してまいります。皆様のご参加心よりお待ちしております。

ワークライフバランス推進委員会 研修会開催される

令和6年1月28日(日)ワークライフバランス推進委員会主催の研修会が開催された。埼玉県済生会加須病院 猪浦一人氏、さいたま市立病院 長澤英一郎氏、戸田中央総合病院 塚原晃氏の3名に各病院の実際の働き方についての講演があり、盛況のうちに終了した。

以下、研修会に参加した会員の感想を掲載する。

埼玉県立循環器・呼吸器病センター 沼上 秀博

レイボックホール(市民会館おおみや)で本研修会が開催された。今回の研修会は現地集合開催であり、日曜日の午前中にもかかわらず32名と多くの参加者が集まり、参加者の関心が高かったテーマであったと思われる。

この研修会を受講するにあたり、他施設の勤務形態や社会でのジェンダー的な考えなどはどのあたりがスタンダードなのか、その基準的な考えが知りたいところであった。本研修会では猪浦氏、長澤氏、塚原氏3名のそれぞれの職場環境の紹介を拝聴し、3病院は規模や休日・夜勤体制の違いなどあるが、ある程度の一致した運用がなされていると感じた。今回の講演内容を一つの指標として、当センターと照らし合わせ職場環境の改善に取り組んでいきたい。また、研修会後の情報交換会でも活発な意見交換が続き、有意義な時間を過ごすことができた。

最後に本研修会を企画された埼臨技ライフワークバランス推進委員会の方々、ありがとうございました。今後もこのような研修会の開催をぜひともお願いいたします。



研究班研修会報告

テーマ 心エコー症例検討会2023

主催 生理検査研究班

実施日時：2023年12月22日 18時30分～20時00分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：がんセンターならではの2症例

講 師 1：大内 輝（地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター）

講 演 2：当ててビックリ!? なんぞなんぞ??

講 師 2：野村 和弘（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員144名

出席した研究班班員：南雲涼太 瀧沢義教 小宮山英幸 野村和弘 新井雅人

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、2名の講師を招き症例検討をおこなった。

大内氏からは、抗がん剤治療関連心筋障害と転移性心臓腫瘍の2症例の提示があった。抗がん剤治療関連心筋障害の症例では、びまん性の左室壁運動低下が認められ、抗がん治療歴により本疾患が疑われた。左室駆出率は高度に低下しており、軽度～中等度の低下の時点で治療がおこなわれることが多い本疾患ではまれな症例であった。本症例は抗がん剤治療前後の比較が重要であり、ベースラインの左室駆出率や左室心筋全体の長軸方向の収縮指標であるGlobal longitudinal strainを適切に評価することも大切であるとのことであった。転移性心臓腫瘍の症例では、下大静脈と右房内に腫瘍像を認め、抗がん剤治療を経て縮小したとの報告であった。患者背景や付着部位、血栓とは異なったエコー像から疑いえたとのことだった。心臓における腫瘍性病変の中で、転移性心臓腫瘍はまれであり、参加者も初見の方が多かったのではないかと思う。本症例の解説中、参考として右室心筋内に生じた転移性心臓腫瘍の画像も示された。

野村氏からは、Barlow's diseaseとLibman-Sacks心内膜炎の2症例の提示があった。Barlow's diseaseでは僧帽弁両尖の逸脱と粘液腫様変性を認め、高度な僧帽弁逆流をきたしていた。本疾患ではMitral annular disjunction：MADを伴うことも多く、提示された症例においても弁輪部と左室基部心筋に間隙を生じていた。MADは不整脈の原因になることでも知られており、僧帽弁の変性や逆流のみならずMADの合併についても注意が必要とのことだった。Libman-Sacks心内膜炎の症例では、全身性エリテマトーデス：SLEに合併した僧帽弁の腫瘍性病変が示された。僧帽弁に付着した高輝度の構造物であったが、20代という若さから加齢性変化は否定的であることからSLEの既往から本疾患が疑われた。加えて、心筋の肥厚や少量の心嚢液を認めたことからSLEでもみられる汎心炎の合併も疑われた。SLEでは約50%の割合で心血管病変を合併するという内容は自分の体感より多い印象を受け、より一層見逃さぬよう注意して検査に臨む必要があると感じた。

本研修会は症例ごとにZoom投票機能を用い、回答を募った。鑑別が難しい心内腫瘍の症例では回答が大きく割れた。内容を踏まえ、講師2名と司会者で討論をおこなった。またWeb研修会では講演後まとめて回答することも多いが、今回はできる限り講演の合間に討論形式で回答するよう努めた。一方向性になりやすいWeb研修会であるが、今回のような形は参加者の理解

も深まりやすいのではないかと感じた。超音波検査は画像を見て経験することで次の検査に活きる、まさに「百聞は一見に如かず」を痛感することが多い。参加者が今回のような貴重な疾患画像を供覧できたことの意義は非常に大きいと感じた。

(文責：南雲涼太)

テーマ B型肝炎について

主催 血清検査研究班

実施日時：2024年1月18日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：基礎教科一各20点

講演：B型肝炎の基礎と最新の知見

講師：高橋 潤 (H.U.フロンティア株式会社 カスタマーサポート部テクニカルサポート課)

参加人数：会員18名 賛助会員3名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 大坂圭司 飯山恵 深田愛 森圭介

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、B型肝炎ウイルス（以下、HBV）の国内患者数などの基礎知識を中心に、B型肝炎治療ガイドライン最新版における追記情報の詳説なども合した研修内容であった。

日本国内における肝炎患者数は300万人弱と推計されているが、そのうち感染に気付かないまま生活をしている人は78万人、感染を知らずながら治療を続けていない人は53万人以上とされる。年間新規感染者数については約1万人と推定され、若年層の感染者も存在している。若年層の感染経路は血液や体液を介した水平感染が主であり、母子感染対策が取られている現在では垂直感染はほとんど発生していない。HBVの暴露1回あたりの感染リスクは非常に高く、ヒト免疫不全ウイルスの約100倍、C型肝炎ウイルスの約20倍である。B型肝炎の診断のための検査項目としては、HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体やHBV-DNAなどが挙げられる。

また、HBVの再活性化の機序と原因となり得る薬剤についても詳細な説明があった。HBV再活性化はHBVキャリアや既往感染者であれば起こり得、再活性化した場合には劇症化する症例も多い。劇症化した場合の死亡率は70%にも上るため、HBV再活性化は問題視されている。HBV再活性化の注意喚起のある薬剤は、免疫抑制薬、副腎皮質ステロイド薬、抗腫瘍薬、抗リウマチ薬や抗ウイルス薬と多岐にわたる。HBV再活性化のリスク管理は、多種の疾患・診療科が関係してくるため、施設全体で取り組むことが重要となってくる。

最新の知見として、近年開発された高感度HBコア関連抗原定量検査についての詳説があった。HBコア関連抗原は、B型肝炎治療ガイドライン第4版で治療中の発がんリスクの指標となり得ると追記されたB型肝炎ウイルスマーカーであり、高感度HBコア関連抗原定量検査はHBV再活性化の早期診断や治療薬の効果判定の指標として有用性が認められている。また、HBV-DNA定量法と比して迅速に測定可能だけでなく同等程度の検出感度であることから、DNA検査の代替になるとも考えられている検査法である。

HBVによるウイルス性肝炎は感染症法の5類感染症に分類されており、国が発生状況を把握する必要があると判断した感染症である。今回の研修会はB型肝炎の基礎知識を学びなおすことで、国がB型肝炎を問題視する理由を再確認する良い機会となった。

(文責：森圭介)

**令和5年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第11回 理事会議事録**

日 時：令和6年2月8日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所
さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：現地にて出席
(理事)松岡 猪浦 山口 濱本 長澤
松寄 松尾 佐瀬 網野 塚原
神嶋 伊藤(恵) 伊藤(隆)
石井 神戸 小林 久保田
長谷川

(監事)遠藤

Zoomにて出席

神山 阿部 長岡

欠 席：(理事)三木

(監事)細谷

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は21名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

I. 行動報告

(令和6年1月11日～令和6年2月7日)

1月11日(木)令和5年度第10回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、三木、塚原、神嶋、
伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、
久保田、長谷川、神戸、石井、
小林、遠藤、細谷

1月11日(木)第3回 創立70周年記念式典・祝賀会実行委員会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、塚原、神嶋、
伊藤(恵)、伊藤(隆)

1月13日(土)日臨技執行理事会：神山

1月13日(土)第4回日臨技災害対策委員会
(能登半島地震)：神山

1月14日(日)中部圏支部災害対策会議：神山

1月15日(月)第5回日臨技災害対策委員会
(能登半島地震)：神山

1月18日(木)第51回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬

1月18日(木)第51回埼玉県医学検査学会 学会
実行委員会との引継ぎ会：
三木、佐瀬

1月18日(木)タスクシフト指定講習会事前準備：
猪浦、伊藤(恵)

1月19日(金)第6回日臨技災害対策委員会
(能登半島地震)：神山

1月20日(土)山梨県臨床検査技師会70周年記念
式典・祝賀会：神山、松岡

1月20・21日(土・日)日臨技地域ニューリーダー
育成研修会：濱本

1月21日(日)第30回臨地実習指導者講習会
(関甲信支部)：塚原

1月21日(日)タスクシフト指定講習会
(埼玉県 021)：

猪浦、松寄、石井、伊藤(恵)、
阿部、佐瀬、網野、三木

1月23日(火)第52回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬

1月24日(水)日臨技制度保証施設認定会議：
神山

1月26日(金)日臨技賀詞交歓会：神山

1月27日(土)日臨技理事会：神山

1月27日(土)令和5年度 全国臨床(衛生)検査
技師会会長会議(第2回)：
神山、松岡

1月28日(日)ワークライフバランス推進委員会
研修会：

猪浦、塚原、伊藤(恵)、神嶋

2月1日(土)第7回日臨技災害対策委員会
(能登半島地震)：神山

2月2日(金)埼臨技ニューリーダー育成研修会
事前打ち合わせ：

濱本、神戸、塚原、佐瀬、
伊藤(隆)

2月3日(土)2023年度関甲信支部・首都圏支部
人材育成研修会：

濱本、松寄、神戸、石井、小林、
伊藤(隆)、網野

2月3日(土)埼玉県医師会新春の集い:

神山、山口、松岡

2月4日(日)一都八県会長会議:神山、松岡

2月4日(日)~9日(金)石川県庁災害対策本部
出向:神山

2月6日(火)検査室管理運営委員会研修会事前
打ち合わせ:塚原

II. 報告事項

1 事務局

- 1月11日(木)第3回式典・祝賀会実行委員会を開催した。(別紙資料1)
- 1月20・21日(土・日)日臨技地域ニューリーダー研修会に濱本事務局長を派遣した。(別紙資料2)
- 2月3日(土)埼玉県医師会新春の集いに神山会長、松岡副会長、山口副会長が出席した。(別紙資料3)

2 総務部

- 1月18日(木)タスクシフト指定講習会事前準備を行った。(別紙資料4)
- 1月21日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県 021)を開催した。(別紙資料5)
- 2月15日(木)だより第537号発行予定。
- 2月18日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県 022)を開催予定。運営責任者は猪浦副会長。

3 事業部

- 1月21日(日)第30回臨地実習指導者講習会(関甲信支部)へ参加した。(別紙資料6)
- 1月28日(日)ワークライフバランス推進委員会研修会を開催した。
- 2月2日(金)埼臨技ニューリーダー育成研修会事前打ち合わせを行った。(別紙資料7)
- 2月6日(火)検査室管理運営委員会研修会事前打ち合わせを行った。
- 2月6日(火)創立70周年・新法人移行記念式典祝賀会打ち合わせに参加した。

4 学術部

- 1月31日(水)4月・5月生涯教育研修プログラムをホームページ委員会に掲載依頼した。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

- 令和5年度正会員費5名25,000円、入会金5名5,000円、合計30,000円の入金があった。
- 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金86,000円の入金があった。
- 石井印刷に埼臨技だより536号Web版19P90,200円を支払った。

7 精度管理委員会

特になし

8 一都八県会長会議

- 2月4日(土)一都八県会長会議に神山会長、松岡副会長が出席した。(別紙資料8)
松岡副会長より、2026年度に千葉県でIFBLS学会が開催されるため、同年度に開催予定の日臨技支部学会が埼玉県で開催される可能性があることが報告された。

9 日臨技関甲信支部

- 1月20日(土)山梨県臨床検査技師会70周年記念式典・祝賀会に神山会長、松岡副会長が出席した。(別紙資料9)

10 日臨技

- 1月27日(土)令和5年度全国臨床(衛生)検査技師会会長会議(第2回)に神山会長、松岡副会長が出席した。(別紙資料10)

11 第51回埼玉県医学検査学会

- 1月18日(木)第16回実行委員会を開催した。(別紙資料11)

12 第52回埼玉県医学検査学会

- 1月18日(木)第51回埼玉県医学検査学会学会実行委員会との引継ぎ会を開催した。(別紙資料12)
- 1月23日(火)第4回実行委員会を開催した。(別紙資料13)

III. 承認事項

1 事務局

- 会員動向(令和5年度分)
令和6年2月1日現在
会員数 3,591名[令和4年度会員数3,458名]
(新入会員 299名)
賛助会員 71社[令和4年度 71社]
承認された。

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

1) 公衆衛生検査研究班班員応募について

(別紙資料14)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。
なお、推薦書の様式について学術部で検討することとした。

2) 令和6・7年度研究班班員について

(別紙資料15)

未承認であった公衆衛生検査研究班、遺伝子染色体検査研究班員について長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第51回埼玉県医学検査学会

1) 第51回埼玉県医学検査学会決算について

(別紙資料16)

上記の件について、佐瀬勝也学会担当理事と小林麻里子理事より発言があり、審議の結果、承認された。

9 第52回埼玉県医学検査学会

特になし

IV. 議題**1 事務局**

特になし

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

このだよりが届く頃桜の開花が話題になっているのでは？と思います。桜（染井吉野）の開花は2月1日から日々の最高気温の積算が600℃になった頃開花するようです。この温度を積算温度と言い植物の生長を予想するために用いられています。この時期、多くの日本国民を悩ますスギ花粉の飛散は1月1日からの積算温度が400℃になる頃飛散が始まり、日本人の主食である米は稲穂が出てから積算温度（米の場合平均気温の合計）が1000℃になる頃が稲刈りの時期だそうです。米の場合品種によって多少異なるようですが、植物の成長は「至適温度下での化学反応時間と生成させる物質質量」と考えると生化学の反応系みたいですね。臨床検査技師は農業にもタスクシフトできるかも知れませんね！

2021年10月に始まったタスクシフト厚労省指定講習会も多くの会員が受講しております。県内で講習会が行われるのも2026年までなので、受講が済んでない方は早めの受講をお勧めします。



(猪浦 記)